
しろはく活動記録

古地図と城の泉 第51号

朝鮮の役島津義弘建立供養塔拓本
五十三次名所図会全五十五枚揃広重
石川流宣大日本図正徳5年
大江戸御本丸大奥向惣絵図万延再建
江戸版城郭用語辞典 武備鈔略解

平成29年9月1日

しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

城郭現地調査報告及び資料調査 博物館事業報告

1・朝鮮の役島津義弘建立供養碑拓本 慶長□八月十五日於全羅道南原
表大明国軍兵数千騎被討捕之内至当手前四百二十人伐果畢 同十月朔日於慶尚衛泗川表大明人
八萬余五擊亡畢 為高麗国在陣之間敵味方鬪死軍兵皆令入仏道也 右於度戰場味方士卒当弓箭刀
杖被討者三千余人海岫之間 横死病死之輩具難記乎 慶長第四記歳六月 薩州島津兵庫頭藤原朝
臣義弘 同子息少将忠恒建之

秀吉による朝鮮侵略戦争の後半、慶長の役に於いて日本軍が全羅道南原城攻めを行った際の記録であり、欠落している年号は慶長2年1597年である。8月13日宇喜多秀家を大将とする日本軍は南原城を包囲、北面は16日島津義弘、加藤嘉明が囲み、激戦の上、南原城は陥落した。泗川の戦いは翌慶長3年10月1日、泗川新城に攻めよせた明朝鮮連合軍37000人を島津義弘7000人が撃退した戦い。戦後15日には日本軍撤退命令が出されている。これは慶長4年6月島津義弘が高野山に建立した供養塔の拓本である。採択時点で石の欠損があり、原拓であるが、痛みが激しく全面裏打ちを行い補修した。写真を掲載しようとしたところ目録作成したばかりにもかかわらず、行方不明である。

2・富原文庫本江戸始図慶長

注目を集めて新聞紙上をにぎわしている江戸始図が出てきた。内容は天下人の城展に展示され、新聞紙上で話題を集めた絵図と変わらない。見た目は軍学者が江戸城を想像して描いた兵法城

絵図としか思えない。実在の城を取り上げて、築城学の研究対象とすることは多い。緻密な縄張りは兵法上の絵図に多く見られる。天守は単なる複合式であり、連立式ではない。



3・伊賀上野御城廓並東大手図等6枚 彩色絵図 東大手門絵図・西大手門絵図・

京口橋絵図・本丸東藤堂采女御代居図・本丸西図・本丸全体図

前回、富原文庫所蔵城絵図の悉皆調査したところ、伊賀上野城の絵図が3種出てきた。1枚は開運なんでも鑑定団に出した修理絵図、1枚は陸軍省城絵図である。あと一点今回公表したのが本絵図である。

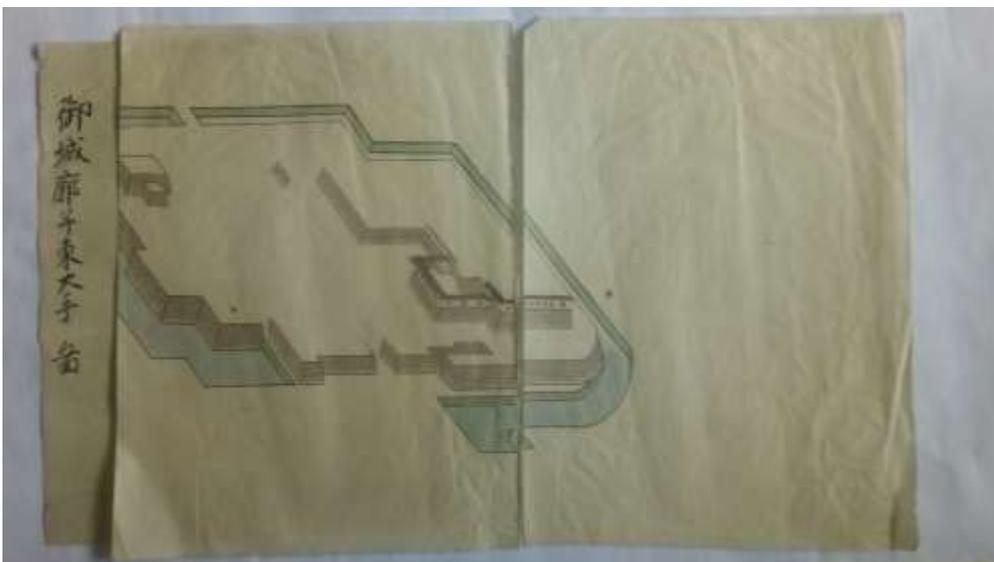
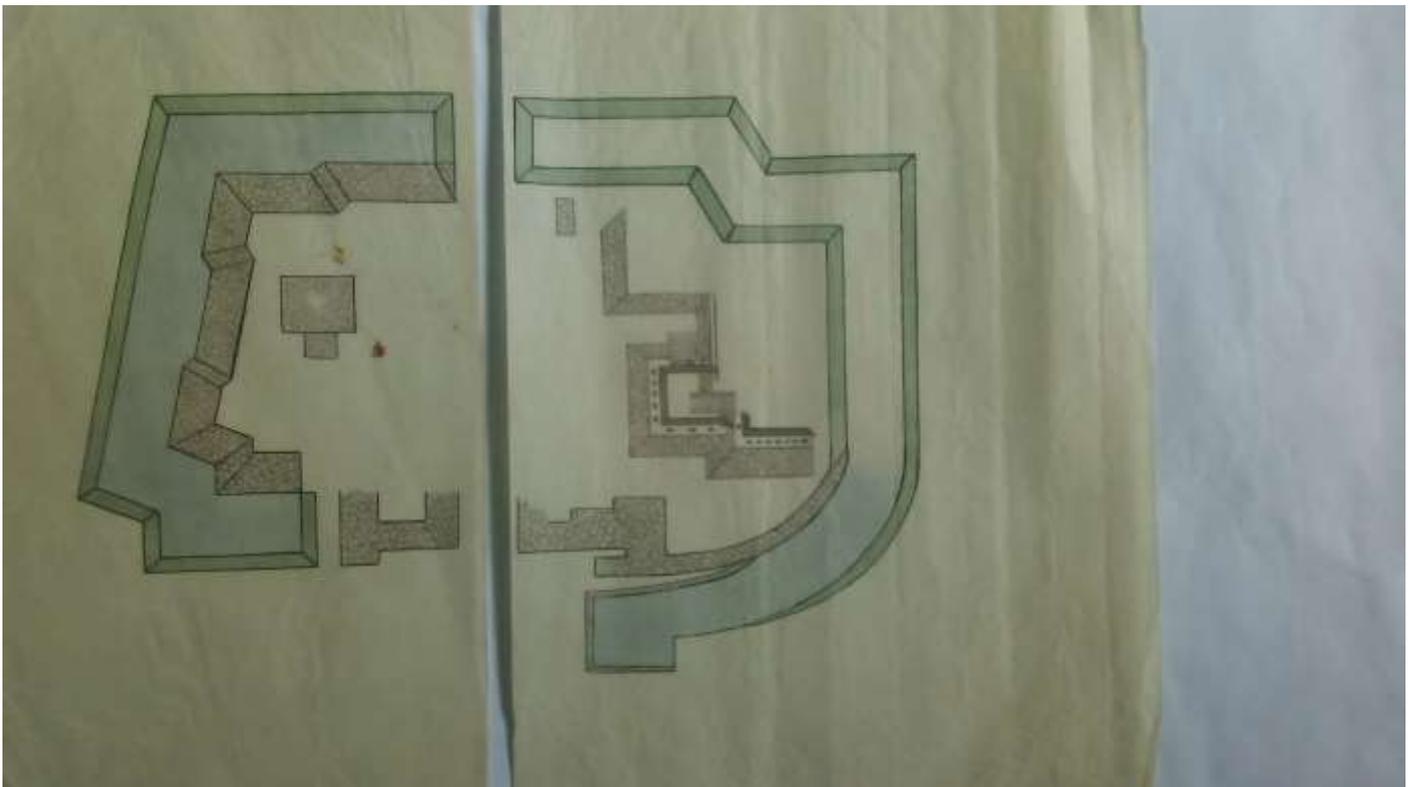
絵図は御城廓並東大手図と題し、絵図のみで文字情報は記載されていない。

本丸絵図 天守台、水堀、高石垣が描かれているが、特徴的なのは東に位置する藤堂長門郭の出枳形と周辺土塀が鳥瞰図的な描かれ、作図当時の現存状況を表している。3紙に描かれているが西の1枚が欠落している。

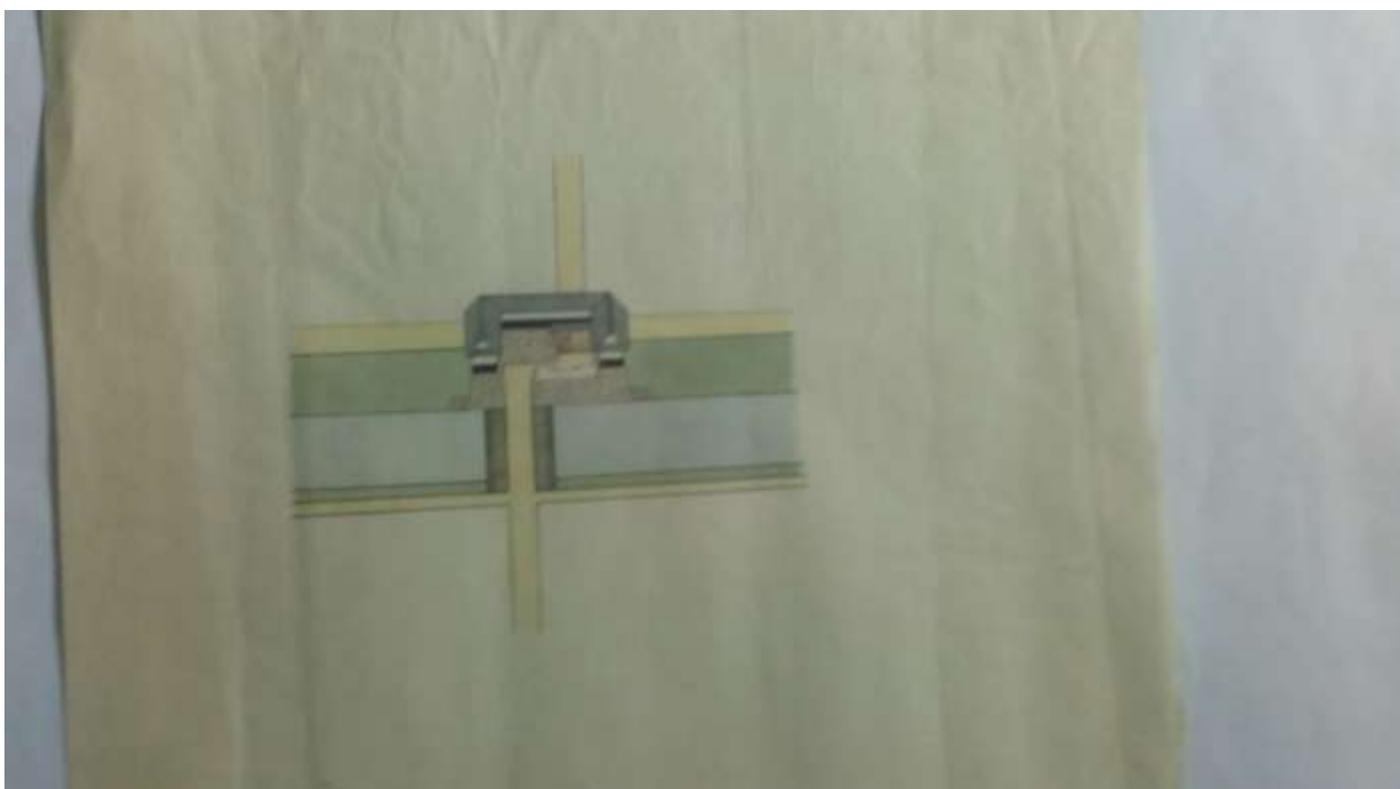
東大手門、西大手門絵図 2枚。南側から俯瞰し、水堀と土橋、枳形を描く、東西とも水堀側の多門と一の門は描かれず、3方の多門と2の門が描かれる。その景観は福井健二さん編纂の絵図から見た上野城の旧阿山郡役所文書と同一である。

京口橋絵図 二之丸西側にある木橋の絵図。城内側の木戸、冊列、木橋の土台石垣、木橋の形状を描写する。

本丸東西分割絵図 2枚で本丸全体を描く、鳥瞰図的ではなく垂直方向から見ているため、藤堂長門郭の出枳形北側の構造も記される。石垣も視点を変えているため、構造上の差異を見ることができる。



左小欠



初めてのスマホ撮影、パソコン取込み不慣れであまりうまくいきませんでした。

新収集情報報告

掲載は入手順に入手後、翌日に記載しています。メモ代わりの備忘録ですので順不同です。

掲載分類は城郭図、城郭錦絵は城郭、群馬地図、資料は群馬、錦絵地図は錦絵、地図類は航空写真も地図、錦絵軍事、砲術、調練は軍事、後はタイトル通りです。

1・古絵図・古地図

松本市路線価図 4枚 唱和36年

調布玉川絵図 昭和28年 西多摩郷土研究会 限定400部 長谷川雪提

台湾産業分布図 台湾総督府民政部殖産課 大正元年

飯田町略図 大平自動車株式会社 飯田町及上飯田町略図案内 広告・名所写真・伊那電鉄各駅名・時刻表

静岡市全図 大正15年 静岡市土木課編纂
彦根市街地図 昭和4年 文泉堂
実測番地入浦和町地図 5000分I 昭和2年 古沢勇
平市全図 10000分I 刊記無
伊村・大正町 陸軍士官学校調製・陸地測量部製版 2万分I 架空地名による測量図
河北分県詳細図 刊記無 天津・北平市図・清苑県城図
神戸市街地東部 10000分I 神戸市
近江国蒲生神崎愛知郡絵図 彩色絵図
長野県上水内村地内柳原村古里村地籍図 明治25年 大量 彩色絵図
対馬外寇史料・対馬図 明治28年
哈爾濱市街全図 昭和5年 宝珠山弥高 裏広告写真全面
江戸絵図 嘉永5年 須原屋茂兵衛
伊豆伊東温泉場全図 大正8年 雪古画 福住屋商店
量地図説 嘉永5年 富田保敬 木版 測量絵図多数
大日本絵図 弘化4年
陸奥国下北郡田名部恐山之絵図別当圓通禪寺 木版 明治26年 熊谷全忠
坂本警察署管内図 東京浅草
長崎市観光案内図 裏全面広告
樺太全図 文明堂納
大阪市図 大正9年 和楽路屋
京城府市街略図 朝鮮総督府鉄道局 昭和12年
鹿児島市街図 10000分I 鹿児島市交通局 昭和26年 鹿児島市地図協会編
津山市街図 昭和22年 裏全面広告 岡山文化振興研究会
日本商工業別明細図飯塚市 昭和27年 裏全面広告
盛岡市街地図 盛岡観光協会
八幡市商工地図 昭和25年 裏商工業者一覧
台東区全図 昭和28年
名古屋市全図 広瀬直道
日本商工業別明細図能代市 昭和27年 根元弘
釧路市内図 東邦交通株式会社
熊本市街地図 昭和16年
福岡市街全図 昭和29年 同潤社
那須九湯明細案内図 明治39年 大金善助
大日本常陸国筑波山社図 明治19年 細密鳥瞰図 桑原武吉 銅版
高野山明細図 明治42年 石版細密鳥瞰図 平田永吉
東京市街電車鉄道案内図・東京全図 明治42年
台湾測量原図自蘇灣至宜蘭道略図 鉛筆書き測量原図 5万分I
地質調査所地質図 飛島・酒田 75000分I 昭和7年測量 商工省
軍事秘密極秘集成五万分一地形図一関第一号 参謀本部 釜石大船渡 昭和20年製版 同一
地図21枚
大日本図 石川流宣 正徳5年 武陽江府書林山口屋権兵衛 1715年
最新実測姫路市街地図 昭和12年 赤西猶松

大日本職業別明細図足利市・館林町・太田町・尾島町・福居・富田 大正13年 東京交通社

宇都宮市地図 昭和16年 宇都宮市国民学校連合研究会

最新実測宇都宮市街地図 宇都宮市役所 戦前 刊記無

最新刊地番入仙台市街全図 昭和11年 盛文館

支那北京市街図 小宮寛制編 博文館 明治27年 銅版色刷

善光寺境内並長野市街地図 明治石版 吉祥院施版

重慶市街図 戦前刊記無

大日本職業別明細図新宮市・田辺町等 昭和8年

大日本職業別明細図和歌山市 昭和5年

最新松山道後市街地図 昭和10年 岡野勇

福井市街全図 6000分I 戦前 刊記無

実測最新奉天市街地図・奉天附属番地入実測図 昭和4年 宮坂徳一郎

清明上河図 真絲織錦画 織物

最新熊本市街地図 昭和14年 駸々堂旅行案内 裏名所史跡案内

実測新版山形市全図 昭和2年 小池長三郎

最新北村山郡地図 松田豊作

最新番地入福島市全図 昭和5年

最新飯坂温泉全図 昭和8年 板橋秀成 裏温泉案内

東西蝦夷山川地理取調図十三從東部クスリ領アツケン從西部シャリ領エチヤタニ迄 松浦竹四郎著 木版色刷

東西蝦夷山川地理取調図十八從西部モンヘツ領エノムコタン從同領トウフツコイトイ 松浦竹四郎著 木版色刷

旧幕府聖堂釈尊図 学問所構内絵図・仲春丁祭之図甲乙2枚・仲春丁祭附図甲乙2枚

附録学校図 旧会津藩日新館之図・旧岡山藩閑谷学校之図・旧岡山藩学校之図・旧名古屋藩学校之図・旧仙台藩養賢堂之図・旧山口藩明倫館之図・足利学校総絵図・旧佐賀藩弘道館之図・旧水戸藩弘道館之図・旧加賀藩文武学校之図・旧福山藩誠之館之図・旧津藩有造館之図

宇都宮市及第十四師団全図 色刷 戦前

最新刊地番入仙台市全図 昭和六年 石川一 色刷 袋付

天津 陸軍作成 無刊記

廣嶋市街実測正図 明治二九年 松村善助

南上海特別区地域計画図 昭和13年 大谷光瑞

山形県管内全図各郡村里程附 明治23年 木村政明 石版2色刷

改正小樽区之図 大正七年 小樽区役所編纂

北海道帝国大学農科大学農場案内 戦前

明治40年改正熊本市明細案内地図 坂田善次

実測番地入鹿児島市街地図 土橋兼良 昭和13年

下総国輿地全図 木版色刷 嘉永2年 鶴嶺戊申著塚田為徳図

越後国絵図 彩色絵図 肉筆 北陸道二本木宿問屋宮尾宗作方房

安城町全図 2万分I 刊記無

2・古典籍・古記録

宗旨送り手形之事 嘉永4年 親・庄屋・寺 市橋下総守殿百姓蒲生郡鏡村平八倅金弥卜申者年二十六才其御村方九左衛門方江養子之遣し申し候右之者宗旨在代々天台律宗坂本西教寺末蒲生郡鏡

村真照寺檀那 御座候 御公儀様 御法式 切支丹宗門以下中略 尾州様御領分蒲生郡西川村
庄屋小兵衛殿正光寺殿

新貨條例 明治4年 官版 木版

安楽問弁 安永8年 貝原益軒 木版

北越小栗実記全10巻5冊 写本

3・印刷資料

4・錦絵・引札・双六・絵葉書・古写真

大日本養蚕歴史画・長野県蚕種大家一覧表 明治32年 高島京言多

五十三次名所図会全五十五枚揃 一立齋広重 大判日本橋から京まで 木版色刷 安政二年七月八月極印 江戸城・品川台場・吉田城・岡崎城・桑名城・亀山城

秘蔵版歌麿 昭和31年 歌麿研究会 限定1000部 木箱入り 木版5枚入り

高崎道中納札 日本橋雪の曙・神田明神前・板橋宿・蕨戸田川渡・上尾加茂社・桶川曠原夕立・鴻巣宿・熊谷八丁堤の雪・深谷の駅・本庄神流川・新町宿・倉賀野宿 7枚

5・軍事資料・武器武具

第七師団明治参拾七八年日露戦役凱旋記念 写真8図 明治39年 川島籐三郎

近衛歩兵第一旅団兵營之図 石版 明治29年 橋都偽助

野戦砲兵第一旅団四個連隊兵營之図 明治38年 内藤伊三郎

海軍砲術提要巻2 大砲絵図多数

玉砲術目録 秘伝書 東山直重花押朱印 小筒之図・種ヶ島之図・角場小屋図 写本

甲州流兵学門第張 文政10年6月26日改 阿川権五郎

甲州流兵学門人姓名 助教赤尾加兵衛・阿川権助

甲州流兵学勤怠張 文政8年11月25日改 阿川権助

甲州流門弟名前張 天保10年2月差出控 阿川五七郎

荻野流鉄砲秘伝書 天明5年 長谷百蔵

6・城

丹波国篠山御城絵図 昭和6年 吉井鉄四郎 軸装

小諸なる古城のほとり書 軸装 碧水

膳城烈士伝並遺稿 明治18年 南崖永元原蔵編 膳城烈士伝全・膳城烈士遺稿上中下3冊

史籍集覧原城記事全20巻8冊 明治16年 和装本

弘前城木版画 1972年 96/200 高木志朗 木版色刷

リトグラフ城2題 城名、作者記名無 高木志朗風

岐阜城水彩画 54 X 79 CM 額装61 X 86 CM 書名朱印あるも読めず

姫津線全通記念国防と資源大博覧会絵図 会場姫路城下 昭和11年4月1日～5月10日
姫路市主催

大江戸御本丸奥向惣絵図 万延元年1860年再建絵図 大絵図

**越後古城附・越後国古城主附並石高附・当国往古古城主附近村古城附・榊原式部 様御時代
村上十五万石村附高帳の附録・越後名寄巻之八古城跡・越後土産初編古城跡・大名旗本領分預り
所・古碑墳墓の部・越後治乱記附録** 全2冊 城主記 明治10年写 与板町三輪

武備鈔略解全 安政六年翻刻 山田影踏 木版 本大将・備立・行軍・陣法・城攻・籠城・夜軍・武者奉行・士大将・足軽大将・歩行士頭・足軽頭・旗奉行・槍奉行・陣場奉行・小荷駄奉行・普請奉行 (城パーツ用語解説・現在の研究者の用語との対比必要)・物見・目付役・間者・士卒・戦功・城攻の功・夜軍の功・後レロノ功・臆シタル働・大臆病ノ働・足軽 早い機会に復刻した

い

城郭文献 史跡松本城二の丸太鼓門枅形発掘調査概報・古井の森城跡の発掘高知県土佐郡土佐山村・中里城跡環境整備基本構想・箕輪城跡千葉県沼南町・史跡江馬氏城館跡下館跡地区整備工事報告書・房総の近世城郭・特別史跡名古屋城跡本丸御殿跡第九次・仙台城跡地震災害石垣復旧事業及び史跡整備事業報告書中門跡清水門跡・特別史跡大野城跡整備事業大宰府口城門尾花地区百間石垣整備事業報告・神石町山城分布調査書広島県・和歌山城郭研究第14号・15号・16号・日本から城が消える・水戸城明治33年関戸覚蔵和装本2冊合本・熊本城跡発掘調査報告書4三の丸地区・熊本城調査研究センター年報3・熊本城復興に向けて・

購入控え資料 春日山日記19冊91000円端本で3冊不足のため・肥前国島原城絵85000円・久留米城下町割図25万円・

7・群馬県史料

上州四万温泉全図 昭和3年 田村茂三郎

8・その他

あとがき

1・所蔵資料目録の後編編纂中 1年後としていた古城絵図目録後編であるが、ある日突然激痛に見舞われて医者に駆けこんだら痛風と言われた。退任後、アルコールは摂取していない。鎮痛薬をいただき、収まったが、毎分数回の激痛には驚かされた。さらに、2ヶ月に一回通院している医院に薬をもらいに行ったら、突然、即、大病院への2週間入院と言われた。何とか調製し東京ビックサイトの催事が終了する9日から23日まで入院することとした。**精神年齢と情熱は日本城郭近畿学生研究会からタイムスリップして20歳**であるが、体は古稀、何があるかわからない。そこで、来年と言っていた富原文庫所蔵絵図の後編として、**所蔵古城絵図の悉皆調査を継続**することとした。前編でまとまりのある城絵図を調査、後編ではテーマで取り分けた古城絵図や展示会対応の分類絵図、館内展示絵図類を網羅する予定であるが、入院のため中断した。出来れば今号に収録したい。時間と命との闘いである。ただ、調査に手間がかかる古典籍、額装絵図、軸装絵図、小型城絵図類は後日**補編を編纂**せざるを得ない。早く所蔵絵図の全容を把握したい、60年の収蔵であり、忘却しているものや、出てこない絵図も多く或る。中学1年で武教全書を購入依頼60年、大阪、金沢、東京と住居を移し、出張で全国飛び歩いた履歴は半端ではない。ある時はコレクターとして、ある時は城郭研究者として、また、ある時は骨董商、古書籍商、古美術商のプロの目で募集に対応、城絵図についてはその内容と量は公共機関に比壁している。所蔵絵図の問い合わせはお断りしている。とても対応できない。命ある限り、5年以内にすべての古地図、銃砲、城郭文献を処分し、5年後、すべての城郭絵図を整理したい。山県謙二さんの貴重な城郭文献も希望者への頒布後、責任ですべて買取させていただいた。これらはいずれ日本の古本屋化、ヤフオクに掲載したい。

2・2週間の入院生活

退任後は終日、24時間、城三昧である。現役時代は印刷産業の未来にかけた充実した日々だったが、城については調査も研究する時間も取れなかった。全国と世界を飛び回り、城郭資料の募集に努めた。古稀を迎え、急速に体力が衰えた。山城調査の体力が取れないのは無念である。人生出来る時にやる。その中での突然の入院である。15日間、**インターネットが使えない。ヤフオクの処理が出来ない**。ネットは4時間帰宅し、留守中の自動返信を設定対応。ヤフオクの落札は慣れてきて、スマホで代用した。落札後の手配が出来ないため、パソコンの技術顧問である娘に依頼した。24時間x15日、**360時間の城タイムが消滅**、大きな痛手である。周りは働きすぎ、良い休みの機会と言ってくれるが、心は休まらない。大量の城文献を病室に持ち込んだ。**入院生活は意外と快適**であった。当初、検査時間に追われ、カロリーの少ない病院食に、仕事も出来ず、イライラが

募ったが、慣れてみるとスマホもパソコンも充電の心配がない、ベッドはリクライニング読書は楽、お茶と冷水は飲み放題と出張と比べても快適な生活である。ただ、テレビの予約録画できず、ニュースを見るぐらいであった。ただ、終日かけて処理していた城郭資料の整理が出来ないことは大きなストレスである。ただ、病院スタッフはすこぶる親切、先生もよく相談に乗ってくれ治療はわかりやすい。感謝に堪えない。ちなみに入院時の病名は糖尿病、異常な数値は血糖値540、HBA1C12,7という考えられない高血糖であった。筋力減退、白内障、眼底出血、痛風と近似の諸症状の原因を突き詰めた。

3・陸軍省城絵図の回想

入院したことで持ち込んだ城郭資料の手始めに陸軍省城絵図を詳細に見直した。丸2日かけて5人がかりで撮影した124枚の絵図、広げ、撮影、再び折りたたみ収納するこれを124回やった。戎光祥出版の伊藤社長、安中フォトスタジオの富沢一社長、奥様、小生と嫁さん、段取り良くスムーズに行けたのは奇跡的であった。伊藤社長から絵図の解説を突然依頼されたが、考えれば、絵図をみながら自分でやる以外にない。124城絵図を広げ、記載内容の全確認、解説を1週間でやり遂げたのは手元にある5万冊の城郭文献のおかげである。最小限必要な事項、幕末の城主、絵図の特定理由、絵図の内容、所在地、特徴、サイズを数行でまとめた。解説はこれまで関西城郭研究会の機関誌城に発表した論文から、編集部で適時採録された。発見の経緯と類似絵図の現状の調査報告である。個々の絵図解説は予期していなかった。編集作業は編集部任せで、実にくまなく研究者の立場を理解できるように配慮いただいた。全体図、部分拡大図、場合によっては数ページに配慮いただいた。オールカラーで9800円というのも破格であった。当初は15000円という計画であった。諸国存城、廃城調書は後で加えていただいた。絵図調査の結果としての記録である。高田さんには絵図の活用方法について、突っ込んだ提示をいただいた。さすがというほかない。絵図を始めてご覧いただいた幕末城郭研究の第一人者、森山先生には絵図作成の背景について、詳細な論文をいただいた。お二人には感謝である。校正は絵図解説と論文について行ったが、絵図は見えていなかった。提出後の絵図の取り違えを1枚見過ごした。製本完成後であり、伊藤社長には大きな迷惑をかけてしまった。概要部分を印刷し、差し替えして製本するという作業で出版が10日ほど遅れた。しかし、まったくわからないほど修復出来ていることに驚いた。出版後は各地から大きな反響をいただいた。一部の教育委員会さんから地区の城絵図1枚を数十万で購入したいとの申込みもいただいたが、この絵図群を分散させることは出来ない。展示の依頼もあり、現在、徳川美術館で5城絵図展示公開中である。多くの方に見学いただき、詳細な絵図に賞賛いただいた。いつか124城絵図すべてを一堂に公開する機会があれば、対応したい。又、大分城址公園整備活用基本計画に掲載されるなど各地で城跡公園の整備に生かされている、絵図公開の目的は果たされた。

4・日本城郭近畿学生研究会の設立経緯

高田さんから質問があり、整理してみました。

昭和41年3月3日日本城郭協会学生研究会近畿支部設立の呼びかけ葉書、橋本楯夫氏ヨリ

3月8日学研会長金原仁入洛、協会近畿支部長榊田巖氏と設立検討、橋本楯夫

4月6日日本城郭協会近畿学生研究会設立準備相談会

4月10日同設立会

学生研究会顧問鳥羽正雄、桜井成広、伊礼正雄、井上宗和、江崎俊平、朽木史郎

日本城郭学生研究会近畿在住会員10名、日本城郭協会近畿支部学生会員6名その他6名に参加呼びかけ

設立会参加者14名

日本城郭協会近畿支部長榊田巖

日本城郭協会学生研究会顧問朽木史郎

学生研究会会員長谷川洋・神奈川県城郭研究会会員三橋正博

近畿地方会員富原道晴、広瀬克己、吉村貴智、浜田裕子、山本さん、坂本直哉、林弘彦、佐々木拓二、原謙二、橋本楯夫

会長橋本楯夫、副会長広瀬克己、林弘彦、役員富原道晴、大江喬正 選出

4月24日第1回見学会近江八幡城址、安土城址見学会

と以上です。顧問の先生は全て故人、現在は城をやっているのは橋本楯夫と小生のみ、他は連絡在りません。

角田君や崎田兄弟、松岡君、宮田君、さらには中井君の参加以前の状況です。その後、井上さんの日本城郭協会からの独立、日本城郭学生研究会からの独立とありました。会誌城春は皆の努力で25号まで続き、多くの研究家を輩出しました。

なお、日本城郭学生研究会と中世城郭研究会の設立経緯については、故本田昇の紹介が全国城郭縄張図集成に採録されている。改めて、彼の偉大さを痛感させられた。藤井尚夫と本田昇は2大巨人である。

5・城郭談話会勉強会報告創刊号・織豊系城郭とは何か 読後感

高田さんから創刊号のメールが送られてきた。喧噪の日常を離れて、検査の合間は読書三昧である。多くの城郭本を読破しているが、改めて城郭談話会の活動と高田さんの活躍に驚いた。勉強会はいわば松下政経塾のような高田城郭塾である。宿題を出し、回答を提出、添削という作業を一人でやっている。時には北垣さんのような研究家を招き現地で研修会。それは通常の見学会ではなく、まさに討論会といえる。昔亡き本田昇と交わした遠慮のない議論がそこにはあった。このような城郭研究者養成機関が外にあるだろうか。日本城郭協会の小中学生対象の城普及活動や各地研究会の講演会、見学会も貴重ではあるが、中世城郭研究会や城郭談話会による真摯な討論の場が、何れ教育委員会や博物館の学芸員、大学教員を多く輩出することになる。かつて、日本城郭学生研究会が中世城館の縄張調査を全国に普及させ、指導し、今の隆盛、さらには文化庁の悉皆調査を促したように、これから生まれてくる事に大きな希望を見出した。又、報告された大学の城郭研究会の成果については、多く公開される機会が少ない。豊橋東高校の狼煙は昭和35年、中世城館の成果としては先駆的である。こちらにも狼煙全冊と若干の大学研究会の報告書があるが、城別に収納しており全容はつかめない。河内高屋城については、明治の細密な地籍図の発見、大阪府教育委員会の依頼によるヘリによる空撮、昭和45年ごろの縄張調査とやったが、縄張図のみ独り歩きしている。学生による城郭研究は其の行動力、若い故になんでも聞ける知識欲、吸収が早いといいとこづくめである。悔いのない人生を歩んでいただきたい。古稀という年齢は後世に何を残すかにある。高田さんを先人と言っては怒るだろうが、高田さんのまねは出来ない、城についての42年の空白は大きいですが、印刷産業の未来を開拓したことに後悔はない、42年前にタイムスリップして自らできる道を歩みたい。

織豊系城郭とは何かは実に最新の多様な研究成果をコンパクトに140編も収録している。研究の幅の広さと編者の高田さんの人脈の広さに驚かされる。軍事の視点や旧陸軍の城郭研究、江戸の兵法城築学、城絵図についての掲載はなかったが、全容が解明されていない分野と言える。日頃、最新研究から遠ざかっている立場からはありがたい。富原文庫の発足の原点は安土城図屏風下絵の発見にある。名護屋城図は屏風に仕立てられる居るが、下絵も2種、写しも発見されている。希望がないとは言えない。

発行所

しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

379-0109 群馬県安中市秋間みのりが丘5-73

携帯電話 090-2722-4689(しろはく)

FAX 027-315-4689(しろはく)

Eメール shirohaku@kym.biglobe.ne.jp

ホームページ <http://www.shirohaku.com/>

ミュージアムショップ 群馬県古書籍商組合加盟

博物館資料専門店

古地図と城 古書肆 城郭文庫

代表

富原道晴
